

統合型資格確認スマート端末の開発実証

1. 事業の概要および目的

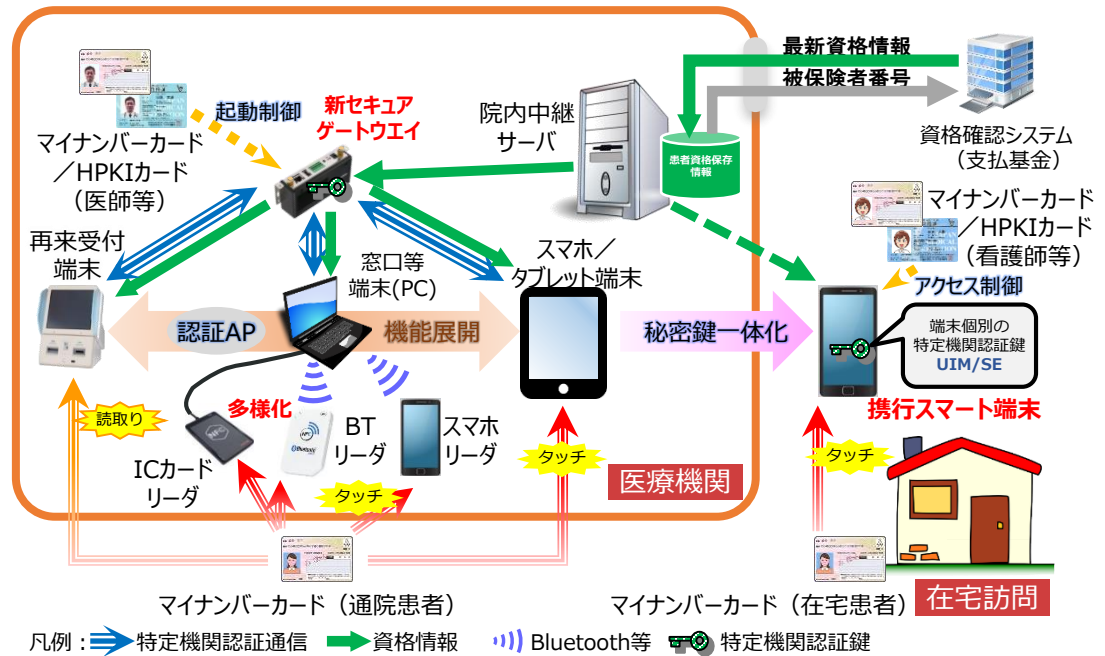
厚労省では2020年度末の医療等機関への導入開始に向けて、オンライン保険資格確認システムの構築を進めている。医療機関には患者のマイナンバーカードから利用者証明書を読み取る受付端末が設置され、オンラインシステムと連携して証明書に基づき保険資格が取得できるようになる。利用者証明書の取得には通常PINコードの入力を要するが、これを省略するのに特定機関認証の仕組みが適用される。当協会では、オンライン接続ができない環境でもPINなしで利用者証明書を取得し本人確認を可能とする、ローカル認証方式の確立に向けた取り組みを行った。

2. 事業の実施内容

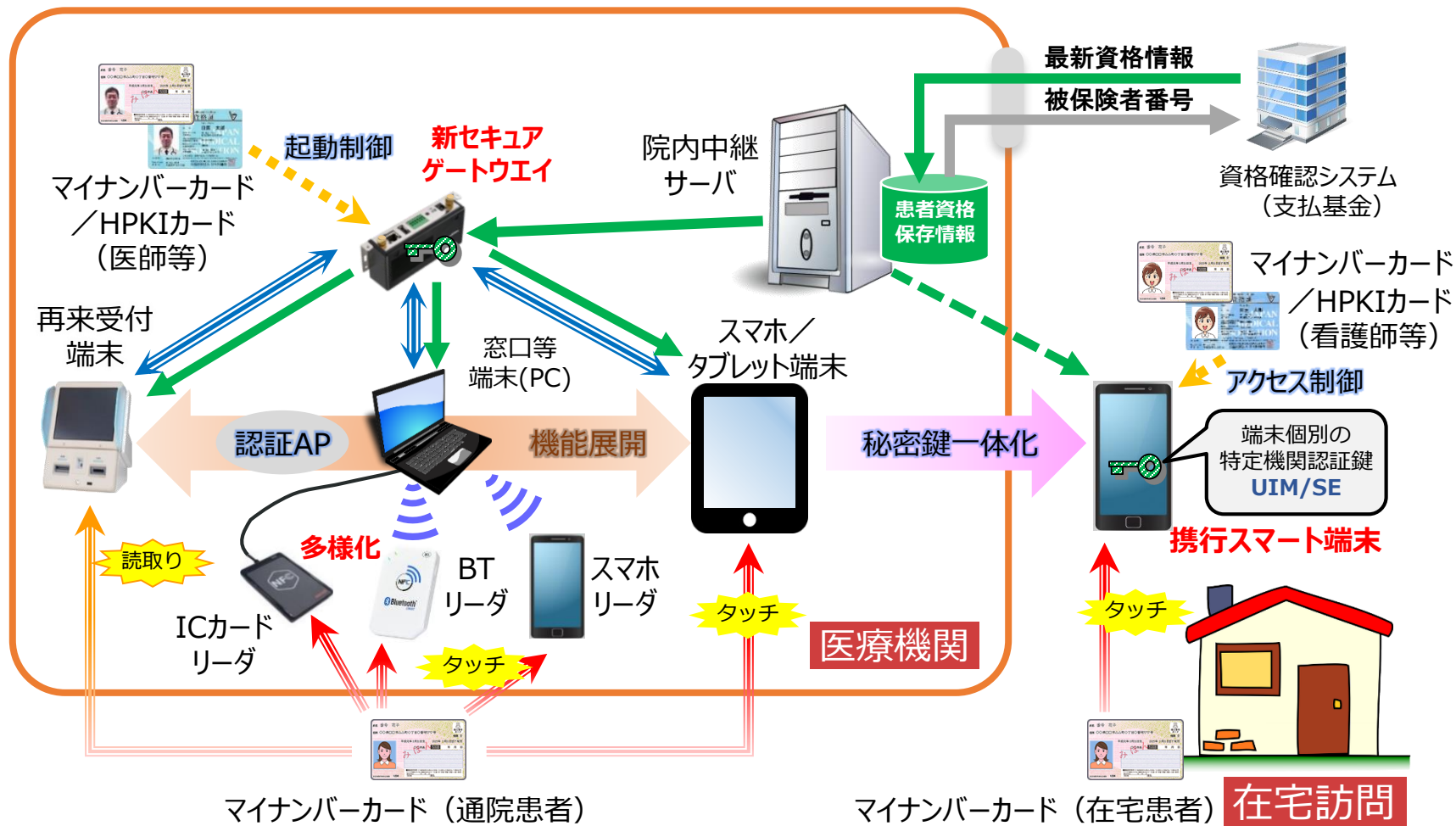
平成29年度には、オフラインで利用する保険資格確認用スマート端末のプロトタイプ検証を実施している。2020年度ではこれ発展させ、インフラ導入が進められるオンライン保険資格確認システムに対し上方互換性のあるローカル認証方式に基づき、端末システムを実際に構成して機能向上を図るとともに、併せてその応用についても検討を進めた。

3. 今後の事業展開と活動

本事業が提唱するローカル認証は、オンラインによる利用者証明書取得を補完する方式であり、ネットワーク環境や時間的な制約を低減するもので、医療機関施設内における利用だけでなく、在宅訪問での資格確認も含めて幅広く利用可能である。今後スタートする保険資格確認システムおよび受付端末の導入方法や詳細仕様については未だ不明な点も多いが、特定機関認証の手順はローカル認証方式と共通であり、スマート端末の利便性について関係者の理解が得られるよう働きかける。活用に向けては、健康/医療/介護の分野を横断する受診履歴管理サービスや処方薬管理サービスへの普及展開を目指して啓発活動を活性化する。



[資料]原図 統合化資格確認スマート端末のコンセプト



凡例：⇒ 特定機関認証通信 → 資格情報 ≡ Bluetooth等 特定機関認証鍵

1. 事業の概要および目的

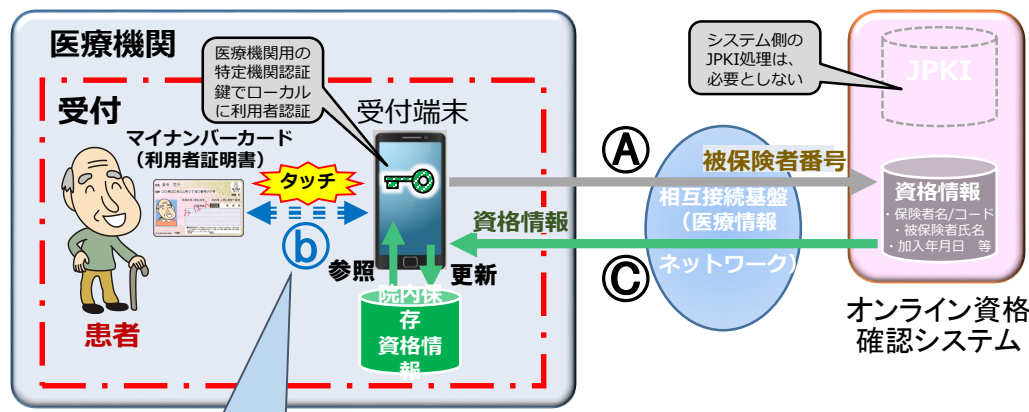
マイナンバーカードが使える保険資格確認システムが、2020年度末導入に向けて準備が進められている。保険資格確認システム側には、患者のマイナンバーカードからPIN入力なしに利用者証明書を取り出せるような、特定機関認証の仕組みが組み込まれる。当協会では、オンライン環境が利用できない環境下でも、医療機関側の受付端末のみで、マイナンバーカードの利用者証明書による本人確認が可能な方式を提唱して実証して来ており、実戦での採用を視野に利便性向上のための取組みを進めた。

2. 事業の実施内容

平成29年度事業では、オフラインで利用するプロトタイプ保険資格確認用スマート端末を開発・検証しており、これを基に平成30年度では、今後インフラ導入が予定されるオンライン保険資格確認システムに対し、上位互換性を持った方式となるローカル認証方式を提唱した。

3. 今後の事業展開と活動

本事業のローカル認証は、オンラインでの利用者証明書取得を補強して利用場所や時間的な制約を低減する方式であり、多様な医療現場に適應できるため、大幅に利便性が向上する。医療機関側の受付端末に求められる詳細仕様については、今後の保険資格確認システムの設計に依存しており、ローカル認証方式との整合性を図ると共に、スマート端末の利便性について関係者の理解が得られるような活動を継続することが重要である。次期スマート端末開発ではスマート端末の活用拡大に向けて、医療等機関における資格確認サービスの導入促進、および多用途化を狙ったモデル試作を進める。また利用者の観点から、健康/医療/介護の分野での受診履歴管理サービスや処方薬管理サービスへの普及展開を推進して行く。



複雑なJPKEのオンライン手順は、医療機関内のローカル処理⑥で置換え

- ローカル認証による利用者証明書取得(⇒被保険者証番号と対照)〔⑥〕
- 被保険者番号によるオンライン資格情報取得〔A⇒C〕

図 ローカル認証を応用した再診時の保険資格確認